

工科学部の 3 つのポリシー

<p>アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）</p>	<p>工科学部で学修する者は、本学の使命に共感し、「社会とともにあるデザイナー」になろうとするものである。よって、自分は社会の中で何をしたいのかという動機を持ち、本学の学修過程を履修することでそれが実現されることを理解している学生を入学させる。</p> <p>【知識・技能】 高校卒業程度の学習を終えている人 本学で学ぶに必要な日本語力を有している人</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 どのような専門職になりたいかという意志を持っている人 自分の考えを伝えるためのコミュニケーション力を有している人</p> <p>【主体性・協働性】 社会にどのような貢献をしたいかという動機を持っている人</p> <p>【意欲】 制作意欲を含み、学修動機が明確な人</p>
<p>カリキュラム・ポリシー（大学教育課程の編成・実施方針）</p>	<p>工科学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけることができるように、以下のとおり教育課程を編成する。このように体系立てられ編成される教育課程に対し、学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方を続けて定める。</p> <p><教育課程の区分></p> <p>【基礎科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のために、大阪および関西産業の優れた製品や技術、構造について理解するための科目を配する。 ・地域社会、グローバルに活躍するために必要なコミュニケーションの汎用的技能を育成する科目を配する。 <p>【職業専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を正しく分析し、解決するための情報技術を学ぶ科目を配する。 ・情報技術者として、自分の利益だけでなく、社会の持続性や発展性を考慮し、行動するための知識を学ぶ科目を配する。 <p>【職業専門科目と展開科目における実習科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のために知識を統合し、最適解を考察した上で、プロトタイプの構築を主軸とする科目を配する。 ・固定観念に囚われず、社会が必要としている高付加価値なものづくりを実践する科目を配する。 ・周囲を巻き込み、ニーズに合わせた高付加価値なものづくりを進めていく力を

養成する科目を配する。

・多くの実習科目を通し、失敗を恐れず、チャレンジ精神や挑戦する行動指針を養成する科目を配する。

・継続的な発展のために、潜在的な課題を汲み取った発想力を涵養する科目を配する。

【展開科目】

・関西・アジアにおけるビジネスの仕組みと関連する知識を養成する科目を配置する。

・関西・アジアにおけるマーケットを拡大していくための戦略に必要な知識を学ぶための科目を配する。

・「どうありたいか」を探求させ、志向性のある倫理観を涵養する科目を配する。

【総合科目】

・キャップストーン科目として「卒業研究制作」を実施する。この科目は、英語での発表を義務付けている。

<教育内容・方法>

(教育方法)

本学では「担任制度」を設け、各学年の学生 10 名程度に 1 名以上の担当教員を配し、学修計画・履修登録のみならず、より良い教育及び学修を円滑に運営するための人間環境を整え「個に対する教育」を行う。

(学修方法)

科目が初歩的なものから専門的なものへと進行する配置の中で、初歩的過程で学んだ科目内容が、どのようにして専門的な科目の基礎をなすか、また専門的科目の内容がどのようにして社会にどのように役立つかを実習科目や総合科目を通じて学ぶ。この実感が、“Designer in Society (社会とともにあるデザイナー)”の基礎となる。したがって、科目配列は特に 1 年次では最初に動機付け及びトピックへのエクスポージャーを目的とした科目によって原理や理論を深く学ぶのではなく、何に使われているかを中心に理解する。その後に原理や理論を学ぶ科目を配置している。これは自分が持っている社会に役立ちたいという動機が、学問によって裏付けられることを経験し、実感的動機を科目学修動機に変換させることでもある。それに基づいて、専門的な科目は動機を満たすものとして自発的に学習することが可能となる。これを実現するために、実務経験のある教員から何を学ぶかを知り、また実習、演習、臨地実務実習なども、漫然と課題に向かうの

	<p>でなく、自発的に学習するものとして位置づけることができるものとなる。</p> <p><学修成果の評価></p> <p>【通常授業】</p> <p>単位認定は所定の授業回数の80%以上の出席・課題提出を前提とし、その上で、各授業に応じて評価することとする。詳細の評価については、各種シラバスで明示する。</p> <p>【臨地実務実習】</p> <p>臨地実務実習科目においては、実習施設との連携の重要性から、必ずルーブリック評価表を用い、公平で客観的かつ厳格な成績評価を行うこととする。詳細の評価については、各種シラバスで明示する。</p>
<p>ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)</p>	<p>現代の複雑化する社会問題と、後継者不足や人手不足、生産性向上といった中小企業が抱えている課題や、少子高齢化や大自然災害への対応力強化、東京一極集中による存在感の低下といった地方の抱えている課題について、基礎的な教養を身に付け、イノベーションの起点となる問題を設定し、専門技術を持ち科学的理論に依拠した判断を行い、倫理観を持ち創造的に課題解決に取り組むことのできる“Designer in Society (社会とともにあるデザイナー)”を養成・輩出する。定められた在籍期間、及び、所定の単位を取得し、必修等の条件を満たすこと等を卒業要件とし、卒業を認定し学位を授与する。</p> <p>1. 地域の課題解決に向けた実践力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報技術を扱う上での基礎的な知識を有している。 ・ 課題を分析し、情報技術を用いて最適な解決策を設計・開発できる。 <p>2. 高付加価値な創造力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 固定観念に縛られず、社会の動向や顧客のニーズに合った商品やサービスを設計・開発できる。 ・ 地域社会のニーズに合わせて多種多様な企業を情報技術の力で結びつけることができる。 <p>3. グローバルなビジネス展開力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関西・アジアにおけるマーケットを拡大していくために地域ビジネスの仕組みを理解し、戦略を立てることができる。 <p>4. 志向性のある倫理観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の利益だけでなく、社会の持続性や発展性を考慮し、行動することができる。

	<ul style="list-style-type: none">・ 社会の「こうありたい」姿を洞察し、倫理観をもって商品やサービスを設計・開発する姿勢を有している。
--	--